

2022年8月28日(日)メッセージアウトライン 「イエス様から目を離さないで！」

聖書箇所：ヘブル人への手紙12：2

タイトル：「イエス様から目を離さないで」

テーマ：本日の聖書箇所はヘブル人への手紙12：2を取り上げています。ヘブル人への手紙全体は信仰の本質を教えてくださいますが、今日の箇所から3つのことを学びたいと思います。

1. 信仰の創始者であり完成者であるイエス様から目を離さないこと
2. イエス様の目の前に置かれた喜びとは何だったのか？
3. 私たちの喜びは何なのか？

①よくある勘違い

*御霊の実としての喜び

*外的状況によってもたらされる喜び

*「幸せ」について

②取り去られない喜び

③「取り去られない喜び=真の喜び」はどこから来るのか

4. 結論

1. 信仰の創始者であり、完成者であるイエス様から目を離さないこと

*創始者——創始者、先導者、道を切り拓いて導く者、指導者

*完成者——成就者、達成者、仕上げる人

①信仰とは何か(ヘブル11：1)

「信仰は望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」

*これは神が約束されたことを事実として受け取ることを意味しています。

・私たちが望んでいること——体が贖われること

・目に見えないこと——子にさせていただくこと、私たちの体が贖われること、神の栄光が現れること、天の故郷を相続する者となること

*信仰の創始者とは？

*信仰の完成者とは？

2. イエス様の目の前に置かれた喜びとは何だったのか？

*「御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現われであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。御子は罪のきよめを成し遂げ、いと高き所で、大いなる方の右の座に着かれました。」(ヘブル1：3)

*「彼は自分のたましいの激しい苦しみのあとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を負う。」(イザヤ53：11)

辱められ、十字架を忍ばれ、罪のきよめを成し遂げ（罪人を悔い改めへと導き、生ける神に仕える者とする）、ついに神の御座の右に着座されたイエス様にとって父なる神のみこころを成し遂げて、御許に帰って父なる神と共にいることこそが、喜びだったのです。

3. 私たちは何を「喜び」としているか？

①よくある勘違い

*御霊の実と呼ばれる者が九つ、ガラテヤ5：22、23に記されています。

「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。」

*私たちがクリスチャンになる前に持っていた喜びは、外的状況によって変化する喜びだったのです。

②取り去られない喜びとの出会い

4. 結論

クリスチャンとして、初めに経験した主にある真の喜びをもし、失っているとしたら、私たちは神様から大きなチャレンジを受けていることとなります。

あの初めの救われた時の喜びはどこに行ってしまったのか？ここで思い出してみましょう。「喜び」は御霊の実です。私たちが頑張って手に入れるものではありません。

そこでまず気付かされるのが「喜び」が失われた時、私たちは自分の力で頑張っているという事実、神の導きや助けを求めずに自分がかつて築いてきた方法や力で頑張っているという事実です。気付かないうちにイエス様から目を離して、自分の勝手な道を歩んでいなかったでしょうか。

イエス様の喜びは、いつも父なる神と共にいることでした。それゆえ、ご自分の前に置かれた喜び、神の右の座に着くこと、神の御そばに帰ることこそイエス様の願いでした。そのためにはイエス様は、十字架の苦しみや辱めをものともせず耐えられたのです。

私たちの喜びも、このイエス様といつも共にいて私たちの内に働いて導いて下さる聖霊による歩みを進めていくこと。

イエス様が絶えず、父なる神の前に出てみこころを求めておられたように、私たちも絶えず主の前に出て、聖霊に導かれて聖書を読み、みこころの道を教えていただき、たとえそれが困難な道であっても、主が願い喜んでくださる道を歩み通して、ついには主のみそばに帰らせていただき、それからとはこしえに主の御そばにいることの喜びを体験させていただきたいと願います。

イエス様の喜びを私たちの喜びとしながら、信仰の創始者であり完成者であるイエス様から決して目を離さず、私たちも必ず主にお会いし、とこしえに御そばで暮らす日が来ることを信じて、喜んで主にお従いしてまいりましょう。決して信仰の迷子になることがありませんように！